

基本の管理は変わらない

離乳後母豚の管理として確認しておきたいのが、次の発情までどうしたら首尾よく繁殖サイクルに載せられるかです。実は20年前の古い海外情報(Pig International 1993年8月号)で扱われていたものですが、今でも十分当てはまる内容になっているのにはびっくりします。

要点は、

- ① 離乳したら母豚は雄豚が見える、聞こえる、におう場所にて管理する
換気を十分に与え、特にアンモニアなどのガスに注意
温度は18~24℃、できれば1日16時間以上の照明を与える
- ② 群飼の場合は必ずワラを敷き、密度をゆったり2.5m²となるように
- ③ 離乳後の飼料は授乳用を使い、離乳後28日以降になったら種場用の通常飼料に戻す
- ④ 離乳後3週経過しても依然として痩せているものには飽食に近い状態で増し飼いする
- ⑤ 離乳後28日間(種付けが終了した母豚)は群飼ストレスを避け、混飼しない

約20年経過して豚の遺伝的能力はかなり進化しましたが、豚の生理そのものは変わりません。やるべき事は同じです。皆さんが熟知している以上の特別なことはあまりありません。厳しい夏場の影響を受けているだけにできるだけ早く繁殖サイクルに戻せるかどうかポイントで、もたもたすると直接来年夏場の出荷減になってしまいます。

この時期日照時間が短くなる傾向が北半球では見られることから繁殖生理に負の影響を与えるとされており(イノシシでは秋は繁殖期ではありません)、ここでもやはり問題にされています。科学的にデータで証明されているわけではありませんが、日照時間は必要ないと否定する根拠もないことから、そのまま継続されている管理手法です。

